

2021年12月15日

京成電鉄株式会社

地域の活性化・まちづくり推進のために 葛飾区×京成電鉄 包括協定書を締結しました 2021年12月14日(火)締結式を実施

葛飾区(区長:青木 克徳)と京成電鉄(本社:千葉県市川市、社長:小林 敏也)では、2021年12月14日(火)に「葛飾区と京成電鉄株式会社との連携・協力に関する包括協定書」を締結しました。

本協定は、区民サービスの向上および鉄道沿線を含む地域の活性化を図ることを目的として、地域の活性化、区政のPR、環境対策、観光振興、まちづくりの推進、子ども・青少年育成等に関する事柄において連携をより一層推進することに合意したものです。

葛飾区と京成グループはこれまでも、空き家対策協定に基づいた空き家予防オンラインセミナーの開催、バス事業における新規路線・細田循環バスの運行など、連携して地域活性化施策を実施してまいりました。

葛飾区と京成電鉄は、本協定に基づき更に連携を強め、既に進捗している京成電鉄押上線連続立体交差事業、京成本線荒川橋梁の架替事業等も継続し、地域社会の発展に貢献してまいります。

本件の概要は、次頁の通りです。



締結式の様子

左:京成電鉄株式会社 代表取締役社長 小林 敏也
右:青木 克徳 葛飾区長

【参考1】京成電鉄押上線(四ツ木駅～青砥間)連続立体交差事業について

東京都、葛飾区、京成電鉄が連携して、東京都が事業主体となり都市高速鉄道京成電鉄押上線の四ツ木駅から青砥駅までの延長約2.6km(事業区間約2.2km)の区間について、連続立体交差化を行い、あわせて葛飾区が主体となり側道(附属街路)を整備するものです。

立体交差化に伴い、11箇所の踏切が撤去されるとともに、これまで鉄道により分断されていた市街地の一体化が図られます。さらに、側道(附属街路)・駅前広場(交通広場)などを整備することによって、沿線地域の道路の状況や生活環境が改善され、新たな魅力あるまちづくりが推進されます。



▲高架化により無くなる踏切

【参考2】京成本線荒川橋梁の架替事業等について

葛飾区の西側に位置する一級河川荒川の京成本線荒川橋梁部およびその周辺堤防は、周辺堤防の高さよりも低く、水位上昇時には越水の危険性があります。これを改善するべく、国土交通省関東地方整備局及び京成電鉄が事業主体となり、葛飾区等と連携しながら橋梁を架替え、堤防を嵩上げするものです。

また、2020年9月に京成電鉄と葛飾区、足立区、国土交通省荒川下流河川事務所は「京成本線荒川橋梁部堤防における水防活動に関する協定」を締結しており、今後も地域の防災活動に貢献してまいります。



▲現場写真



▲架替イメージ(新橋の全景)